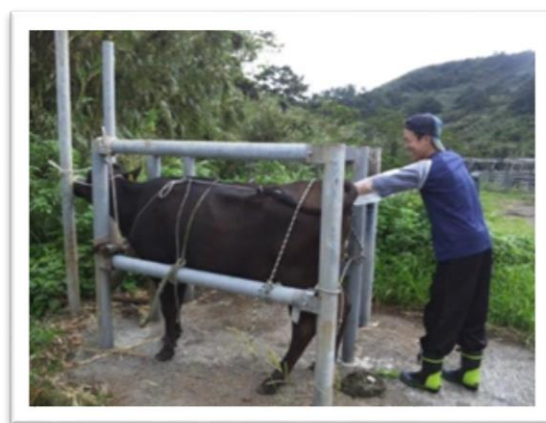


「平成27年度NPO共生・協働・かごしま推進事業」  
都市部と小規模離島（十島村・三島村）をつなぐ  
援農体験交流事業報告書  
-十島三島援農隊報告書及び体験メニュー-



平成28年3月

NPO 法人トカラ・インターフェイス

はじめに

三島・十島の両村は 100 人前後の人口が住む島々が列島をなして連なる全国的にも特徴ある小規模の国境離島として共通性を有している。

それは全国唯一、役場行政が両村とも住民の中になく、住民の自治機能を住民主体に頼らざるを得ない環境下にあることである。また、高齢化と労働力・担い手不足で、島の暮らしと経済を支える農畜産業・第一産業が衰退の危機にあり、その第一次産業をどう復活再生するのか、移住につながる交流人口の増大をいかに図って行くかが両村にとって大きな課題になっている。

そのために県の共生協働事業を県離島振興課の委託を受けて、都市部と小規模離島（十島村・三島村）をつなぐ援農体験交流事業を実施し、都市の若者を呼び込み地域資源に触れる農業体験等の滞在交流プログラムを通じた都市部と十島・三島の小規模離島との交流拡大を展開してきた。

この取り組み成果は、十島村に 15 名、三島村では 5 名、計 20 名の若者が島に入り、農畜産農家と農作業体験交流を主体に、島の暮らし体験や島の魅力資源・伝統文化に触れる貴重な体験交流を行いながら、一次産業の再生・交流人口の増加に繋げることができたことである。交流人口の増加にくわえて、十島村への 1 家族の移住が決定したことも大きな成果のひとつである。

また、本事業を通じて共通の課題を抱える両村が現地での検討会や交流会を行い、意見交換をしたことで、村間・離島間連携のきっかけになったことも大変意義のあったことだと捉えている。

今後は、十島村・三島村両村の人・物・情報の交流をより活発化させ、両村のリーダー育成・担い手人材育成も併せながら継続的な交流を続けていくことで、小規模離島が抱える共通の課題の解決の糸口になることを期待している。

最後に、事業推進にあたって両村役場、現地コーディネーター及び受入れ農家、自治会等の多大なご支援、ご協力を賜りお礼申し上げます。

特定非営利活動法人トカラ・インターフェイス  
代表理事 日高 重成

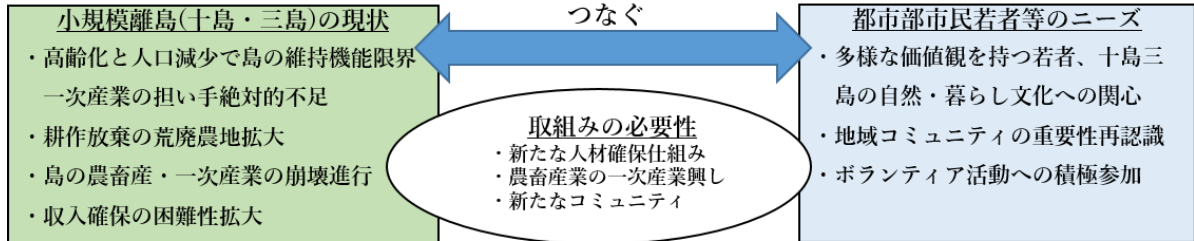
# 目次

I 事業展開と実施体制・仕組み	3
II 受入れ農家調査及び体験メニュー	4
1. 三島村 黒島	4
2. 三島村 竹島	5
3. 十島村 口之島	6
4. 十島村 中之島	7
5. 十島村 諏訪之瀬島	8
6. 十島村 宝島	9
III 援農体験日誌および体験報告書	10
1. 十島村 諏訪之瀬島 大学3年(女)	10
2. 十島村 中之島 大学4年(女)	12
3. 十島村 中之島 大学2年(女)	14
4. 十島村 口之島 アルバイト(男)	16
5. 三島村 黒島 大学4年(男)	18
6. 三島村 黒島 会社員(女)	20
7. 十島村 中之島 会社員(男)	22
8. 十島村 中之島 主婦(女)	24
9. 十島村 宝島 大学4年(男)	26
10. 三島村 竹島 大学4年(男)	28
11. 三島村 竹島 大学3年(男)	30
12. 三島村 竹島 大学3年(男)	32
13. 十島村 宝島 会社員(男)	34
14. 十島村 宝島 主婦(男)	36
15. 十島村 中之島 会社員(男)	38
16. 十島村 中之島 主婦(女)	40
17. 十島村 中之島 大学2年(女)	42
18. 十島村 口之島 専門学校2年(男)	44

# I 事業展開と実施体制・仕組み

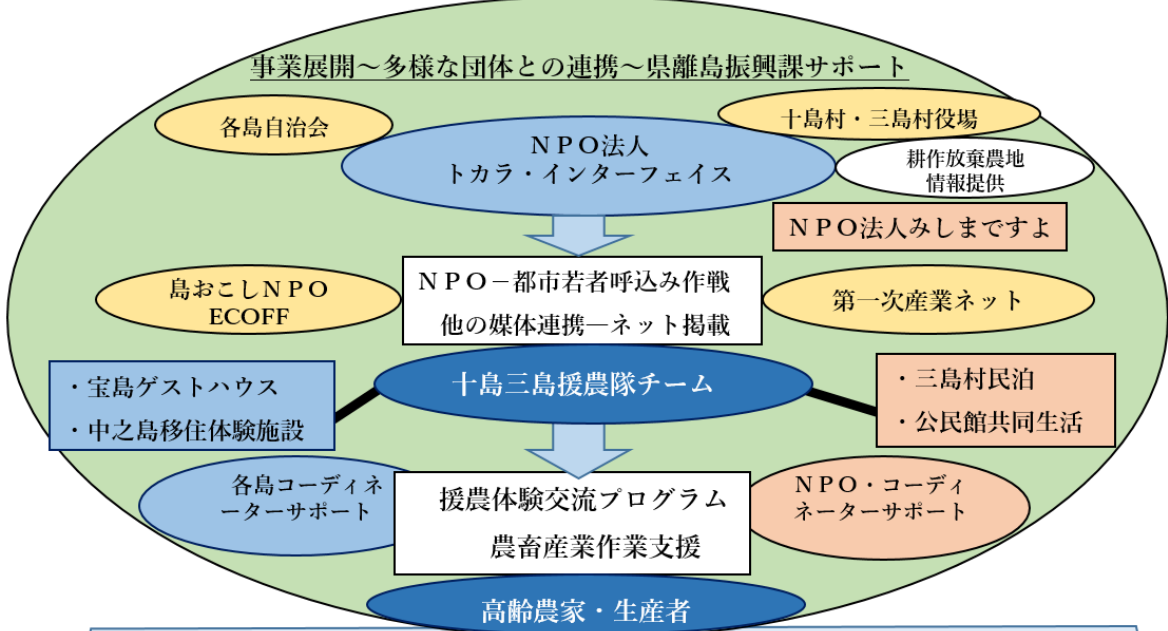
## 都市部と小規模離島(十島村・三島村)をつなぐ援農体験交流事業

～事業展開と実施体制・仕組み～



**取組みテーマ**  
 地域資源に触れる農業体験等の滞在交流プログラムを通じた都市部と小規模離島との交流拡大

**事業概要**  
 十島・三島の第一次産業の危機的状況を解決するために、島の自治会等と協働し、農畜産業に関する滞在型の援農体験交流ボランティアチーム「十島三島援農隊」を仕組み、都市部の若者の呼び込みを図って、島の農畜産業の再生にむけた取組みを展開する。



- 目的・目標**
- ①十島・三島両村の農畜産業再生のための人材・人手不足解消につながる取組みの展開
  - ②崩壊の一途をたどっている、島の農畜産業を支援する援農体制・仕組みづくりで島の営農再生を図る
  - ③若者の離島地域体験・交流人口の拡大をすすめ、移住定住への展開につなげる
  - ④十島・三島の村間・島間交流の新たな人・物・情報の交流を活発化させ、小規模離島の地域おこしへの新たな変革をはかる

## II 受入れ農家調査及び体験メニュー

### 【黒島】農業体験支援受入農家 調査

聞取り 農家数	受入希望 農家数	宿泊施設	就業内容	品目	作業内容	作業時期
		大里生活センター 大里ふるさとセンター	畜産	肉用牛子牛生産 竹林伐採	・えさやり ・牧草刈り ・糞かき	毎日
備考	一次産業のほとんどが畜産の為、畜産の管理作業が主になると思われる。しかし、現状として島内の受け入れ農家へ派遣していくところまで進んでおらず、コーディネーターの一貫した畜産体験を主に、空き時間で他農家や地域の方々とコミュニケーションをとれる時間を作る形で進めている。					
島内観光	観光コース整備は未整備整。ジオパーク登録で今後の整備に期待したい。					
ガイド	登山ガイドはいるがあまり実働していないのが現状					

#### <体験メニュー案>

企画名	高級黒毛和牛の基牛育てる本格的な畜産体験ができるツアー							
体験時期	通年							
日程								
1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	8日目	7日目	9日目
到着 オリエン テーショ ン	竹林整備	餌やり 牧草刈り 糞かき	牛舎の清 掃 牛の移動	休日 島内観光	竹林整備	餌やり 牧草刈り 糞かき	牛舎の清 掃 牛の移動	帰宅

## 【竹島】農業体験支援受入農家 調査結果

聞取り 農家数	受入希望 農家数	宿泊施設	就業内容	品目	作業内容	作業時期
6件	5件	公民館	畜産	肉用牛子牛生産	<ul style="list-style-type: none"> <li>・えさやり</li> <li>・牧草刈り</li> <li>・糞かき</li> </ul>	毎日
備考	畜産と竹林整備の複合受入で、畜産は複数農家での体験が可能。竹島は他の島へ乾燥草を販売もしているため、時期によっては牧草の種まきなどの作業も体験も可能。竹林整備についてはコーディネーター自身も役員を努める竹島地区筍振興会（竹島地区会）管理での作業なので、交流人口が多いが、摩擦は少ないと思われる。					
島内観光	観光コースは整備が整っているとは言えないが、今年度ジオパークに申請しているため、地理学も含めた観光をする環境ができつつある。					
ガイド						

### <体験メニュー案>

企画名	日本一の筍「大名竹」の竹林整備と笹で育つ牛の育成体験							
体験時期	10月～3月							
日程								
1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	8日目	7日目	9日目
到着 島内観光	竹林整備	餌やり 牧草刈り 糞かき	竹林整備	休日 魚釣り	竹林整備	餌やり 牧草刈り 糞かき	竹林整備	帰宅

## 【口之島】農業体験支援受入れ農家調査

聞取り 農家数	受入希望 農家数	宿泊施設	就業内容	品目	作業内容	作業時期
15名	9名	コミュニティセンター 空き家住宅	畜産	肉用牛 子牛生産	・給餌・糞かき ・牧草刈取り	毎日 7月
			農業	島らっきょう	・植付け準備 ・定植 ・管理 ・収穫	8月 9月 10～1月 1月～3月
						つわぶき
				田芋	・定植 ・収穫	3月 11月～2月
備考（その他情報等） 畜産と農作業の複合で受入れが可能な為、単独農家もしくは複数農家での農業体験が可能。また、畜産作業に関しては受入希望農家数が多いため、役場出張所に作業希望台帳を設置しコーディネーターによる現地マネジメントによりバランスよく派遣を行う必要がある。宿泊場所も空き家住宅を活用することで長期の滞在型体験プログラムが可能。						
島内観光	タモトユリ、野生牛、セランマ温泉、平瀬海水浴場、など観光コースはきちんと整備されており道路も舗装されている。島を回って約半日のコース。					
ガイド	ガイド協会は検討中であるが、現地Iターン者によるガイドが可能					

### <体験メニュー案>

企画名	自然放牧トカラ牛の生産管理と島の伝統産物収穫体験							
体験時期	1月～3月							
日程								
1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目	9日目
到着 島巡回	餌やり 島らっきょう 収穫	餌やり 島らっきょう 出荷 ・調整	餌やり 畜産	休日 島内観光	餌やり つわ 収穫	餌やり つわ 出荷 ・調整	餌やり 畜産	帰宅



## 【中之島】 農業体験支援受入れ農家調査

聞取 農家数	受入 可能農家	宿泊施設	就業	品目	作業内容	作業時期
28名	23名	開発センター 空き家住宅	畜産	肉用牛 小牛生産	・給餌・糞かき ・牧草刈取り	毎日 7月
			農業	島らっきょう	・植付け準備 ・収穫	8月、9月 1月～3月
				田芋	・定植 ・収穫	3月 11月～2月
				びわ	・袋かけ ・出荷調整	1月 4月
				スイートスプリング	・収穫・運搬	11月～
				タンカン	・ネット張り ・収穫	12月 2月
				島バナナ	・収穫	通年
備考（その他情報等） 豊富な果樹栽培の農業体験を中心に受入農家数や体験メニューが豊富な為（西区 びわ等果樹 東区 田芋、タンカン 日の出地区 島らっきょう、畜産）、島の営農を総合的に体験することが可能。また、温泉施設の清掃や歴史民俗資料館などコミュニティでの交流や歴史文化を学ぶ体験もできる。ただし、宿泊場所からの送迎などコーディネーターの確保と養成が必要。						
島内観光	トカラ馬見学、歴史民俗資料館、天文台、与助岩、ヤルセ灯台、ガジュマル見学、ヤジガウラでの昼食、七ツ山海岸見学、御岳登山など、モデルコースがあり、現在は伐採も済んでいるため全てが利用可能で、半日～1日コースの設定ができる。					
ガイド	ガイド協会は検討中であるものの、ガイド希望の島民は4～5名ある。 観光スポットや歴史に詳しい方から研修を受ければ、立ち上げが可能					

### <体験メニュー案>

企画名	島の豊富な果樹栽培・各集落の営農体験とトカラの歴史文化島暮らし体験							
体験時期	12月～3月							
日程								
1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目	9日目
到着 島巡回 歴史館	西区農業 体験 (果樹)	西区農業 体験 (果樹)	東区農業 体験 田芋収穫	日の出 地区 (畜産)	日の出 地区 (畜産)	農業組合 野菜収穫	島内観光 御岳、ヤ ルセ等	農業組 合、野菜 出荷



## 【諏訪之瀬島】 農業体験支援受入れ農家調査

聞取農家数	受入可能農家	宿泊施設	就業	品目	作業内容	作業時期
9名	5名	ゲストハウス	畜産	肉用牛 小牛生産	・給餌・糞かき ・牧草刈取り	毎日 7月
			農業	サンセベリア	・収穫 ・ハウス温度 ・管理	8月 9月 1月～3月
					すいか	・定植 ・管理 ・収穫
			漁業	トビウオ	・漁 ・水産加工	6月 6月～8月
			林業	大名たけのこ	・収穫	4～5月
備考（その他情報等） 4月の大名たけのこ、6月のトビウオ漁などトカラ独特の自然の恵みを利用した体験が可能。 また、観光ガイド・食育など島内で独自のプログラムを展開している方もおり自然を存分に味わえるメニューを組むことができる。 また、宿泊施設にかんしてもゲストハウスが完備しており実現性が高い。						
島内観光	遊歩道が整備されており、山桜、カクチョウランなど貴重な植物の見学、御岳登山で溶岩地を見学など					
ガイド	ガイド協会が既にあり、料金設定なども整備済み					

### <体験メニュー案>

企画名	トカラ自然の恵みを満喫するエコライフ体験							
体験時期	4月～8月 (6月からは大名筍作業の代わりにトビウオ漁等)							
日程								
1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目	9日目
到着 大名筍 収穫・出荷	餌やり 畜産	餌やり 畜産	休日 島内観光	大名筍 収穫・出荷	農作業	農作業	大名筍 収穫・出荷	帰宅

## 【宝島】農業体験支援受入れ農家調査

聞取農家数	受入可能農家	宿泊施設	就業	品目	作業内容	作業時期
15名	11名	ゲストハウス	畜産	肉用牛 小牛生産	・給餌・糞かき ・牧草刈取り	毎日 7月
			農業	島らっきょう	・植付け準備 ・収穫	8月、9月 1月～3月
				三尺バナナ	・収穫	通年
				びわ	・袋かけ ・出荷調整	12月 3月
			漁業	漁業	トビウオ	6月
			加工業	ジャム、菓子	製造	通年
				製塩	製造	通年
				黒糖製造	製造	2月～
	備考（その他情報等） 春、夏の学生等ボランティアを継続的に実施しており、プログラムとして確立している。特にコーディネーター・民泊（ゲストハウス利用）・自分の就業の労働力確保・島の伝統加工（黒糖づくり、芭蕉布の復活）など一貫した取り組みで行っており、満足度も高い。					
島内観光	トカラ馬牧場、大籠海水浴場、荒木崎、平家見張り跡地、イマキラ岳、観音堂、大間泊、 イ ギリス坂など、観光コースも整備されており、半日～1日の観光が可能					
ガイド	現地Iターンの方がガイドも可能。					

### <体験メニュー案>

企画名	農業体験と離島の自然を楽しむ9日間							
体験時期	12月～3月、7月～8月							
日程								
1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目	9日目
到着 島巡回	農業作業 体験	農業作業 体験	農業作業 体験	島内 観光	農業作業 体験	農業作業 体験	農業作業 体	帰宅

### Ⅲ 援農体験日志および体験報告書

体験場所: 十島村 諏訪之瀬島

大学3年(女)

#### 動機・課題

今回のインターンシップで、仕事としての農業を体験し、経済的な視点から農業について知ること、また地方での生活のメリットやデメリットを実際に体験することで理解し、問題点や課題を見つけ、より地方が活性化するにはどうすれば良いか考えることを目標として取り組んだ。

畜産、農業と体験したが、生産したものにブランドがあるわけではなく島での名産とし

ての農業が成り立っている訳ではなかった。その理由として、気候が不安定で生産が安定していないということがあげられると私は思う。実際に10日間の滞在でも急な大雨に見舞われることが多く、また台風による被害も大きかった。不安定な気候でも安定した収穫が見込める産業を発展させることで、産業の活性化に繋がると思った。

島全体としては、大規模な農業などは行われておらず、小規模な農業で自給自足している家庭が多かった。

経済的な視点から農業を知るという点では目標は達成できなかったが、お金が行き来しない、同士の繋がりを知ることができ、これが本来あるべき農業の姿なのではないかと思った。



#### 体験内容



##### ・牛舎の清掃、給餌

牛は基本放牧だが、肥育用の子牛は濃厚飼料を与えるために牛舎で飼育していた。そのため1日2回、朝と夕方に給餌と牛舎の清掃を行った。また放牧している牛には2日に一回程度濃厚飼料を与えた。



・バナナ畑の除草作業

島バナナの生産者の方の農場で、除草作業を行った。バナナ畑には約 20 本程度のバナナの木があり、10 人で、すべて手作業で行った。

・奉仕作業

滞在期間中に島民全員で行う奉仕作業に参加させていただいた。9 月の後半に島民全員で行う運動会があり、そのために小学校周辺の除草作業を行った。作業内容は校庭内の草刈りに加え、校舎周辺にあるガジュマルの剪定も行われた。刈った草や木はトラックに載せて運んだ。

・トラクター修理

お世話になっている農家の方の農機が壊れたということで修理の補助をした。島ではネズミが多く生息し、農機の配線をかじって壊してしまうことがよくあるらしく、今回は配線の修理を行った。

感想

働くとは一体何なのかについて深く考えることができた 10 日間であった。お金を稼ぐということは、今日の社会で生きていく上で必要不可欠である。しかしこの島には店がひとつもなく、お金を使う場所と言えば島に 2 つだけある自動販売機くらいである。収入は民宿の経営や子牛の出荷によるものが主で、島民は野菜を育てたり魚を釣ったり、時には住民同士で収穫したものを交換したりして生活していた。私はお金があれば欲しいもののほとんどは手に入れることができ、不便を感じることはないところの島を訪れる前は考えていた。しかし不便さの中にある充実感に気づき、これはお金を稼いで欲しいものを欲しい時に手に入る

援農体験内容（諏訪之瀬島）

日程	作業内容
1 日目	ガイダンス、島内巡回
2 日目	牛の給餌、水やり 牛舎の掃除
3 日目	牛の給餌、水やり、牛舎の清掃 農機修理補助
4 日目	牛の給餌、水やり、牛舎の清掃 畑の草とり 放牧場の見回り
5 日目	牛の給餌、牛舎の清掃、エサの積み込み 島内小学校での奉仕作業 リサイクルゴミの分別作業
6 日目	牛の給餌、牛舎の清掃 島特産品制作補助 子牛の放牧場から牛舎への移動
7 日目	牛の給餌、水やり、牛舎の清掃 バナナ畑の除草作業

ることができる環境にいては気がつくことができないということが分かった。将来は物質的な充実を求める以前に精神的な充実を感じる生活のなかで働くことができればと思った。



動機・課題

トカラ列島には時間のかかるフェリーでしか行くことができないということを、不便だ、面倒だと話す人が多いが、旅をする側(しかも時間のある学生)にしてみればそんなこともなく、フェリーに乗らなければ行けないということは、むしろ非日常を味わうことができるいい機会だと思い、「としま」の魅力についてもっと宣伝することで、観光客を増やすことにつながるのではないだろうかと考えた。

体験内容

## ・島らっきょうの出荷作業

島らっきょうの出荷作業をしながら、十島村の奨励作物について話を伺う。島の野菜を鹿児島に出すとき、送料に補助が出る作物の事を奨励作物という。奨励作物の選び方で島の特産品が変わると言っても過言ではない。島の作物を売る時は、本土との違いづくり、ブランド作りが大事とのこと。

## ・ニンニク畑畝立てとマルチ張り、

中之島には珍しい食べ物がたくさんある。百葉草、大名タケノコ、田芋の餅など。これらは、鹿児島などなじみがあるところで売ってもあまり売れないかもしれないが、東京などの都市圏では売れると思う。

#### ・島バナナの収穫

・バナナの収穫体験をしたらどうだろう。バナナ畑は森の奥にあり、南国情緒がたっぷりだった。私を含め、バナナがなっているのを見たことがある人というのは少ないと思う。農家さんと一緒に畑に入り、自分の手でバナナを収穫するというのは、島らしく貴重な体験になった。

#### ・台風被害復旧作業補助（炊き出し）

台風被害の復旧作業をしている島民への炊き出しの手伝い。大工などがいなくても自分たちですべてでき、しかも自主的に集まっているのが素晴らしいと感じた。また、婦人会などが炊き出しをおこなって差し入れをしている姿に、島の共生の意識を強く感じる。中之島には珍しい食べ物がたくさんあり、もっと島の食材を活用した料理を教わりたかった。こういった希望を島の人に伝えることで、交流体験が更に有意義なものになると思う。

### 感想

ごはんを食べた後、散歩に出て、坂を上ると視界がひらけ海が一望できる高台に出た。ベンチの横でおじいさんが遠くを眺めている。「おはようございます」と声をかけると、「どこから来たの?」と雑談になった。「ここはね、老人ばかりなのですよ。空き家も増えてしまって。さみしい限りです」とおじいさん。

中之島にはいいところがたくさんあると思う。自然が豊かなところ、食べ物がおいしいところ、人が温かいところ。けれど、このとき私は「そうなんです」というだけで、おじいさんを元気づけることはできなかった。「でも、自然があるじゃないですか」なんて言うのは、無責任だと思った。なにもできないな、ということを感じたできごとだった。

きれいごとだが、いつか力をつけて、中之島や他の地域を元気にできるようなことがしたい。そのために中之島での経験や、これから社会に出て体験することを一つ一つ自分の糧にしていきたい。

#### 援農体験内容（中之島）

日程	作業内容
1日目	集落散策・工事作業の方への差し入れ、トカラ馬牧場・御池見学
2日目	島ラッキョウの出荷作業 牛小舎見学
3日目	ニンニク植付け作業（畝立て、マルチ張り） バナナ収穫作業 歴史民族博物館・キン岳見学
4日目	台風被害復旧作業補助（炊き出し）
5日目	片付け、報告書まとめ

体験場所: 十島村 中之島

大学2年(女)

トカラ列島の中之島で5日間にわたって農作業体験したいと思った動機は、離島の魅力に惹かれていたこと、牧場などの畜産業に興味を持っていたためである。どちらも観光で見ることは出来るが実態などといった深いところは見る事は実習やインターンを通じないと難しい。そういった経緯で今回、5日間中之島にお世話になる事になった。



### 体験内容



#### ・島らっきょうの出荷作業

島らっきょうの収穫作業。台風の影響で種用に栽培していた宝島の島らっきょうが全滅したため、中之島のもを種用で送るということで収穫作業を行った。全てが手作業なので長い時間がかかったが、作業中に島のことや受入れ農家さんの生い立ちなどの話を聞くことができ、勉強になった。このような島間での連携があることを知り、貴重な体験になった。

#### ・牛舎の見学

離島での畜産管理を知りたく、牛舎を見せてもらった。規模が小さく、放牧での管理ということに驚いた。また、健康管理について何うと、獣医師は月に一回診察にくるとのことで牛の状態の確認と観察に細心の注意を払っているとのことであった。



### ・農場管理

受入れ農家さんの畑で農作業の補助を行った。畑を耕す作業はもちろん初体験であったので新鮮な思いであった。夫婦二人で管理していることがにわかに信じがたいくらいの広さで、特にバナナ農園に関しては趣味でやっていると聞いたときは正直驚きを隠せなかった。

### ・台風被害復旧作業補助（炊き出し）

台風被害にあった温泉工事をされている島民の方にご飯の準備の手伝いを行った。男は温泉工事、女は昼ご飯、おやつを作るといったふうに役割を分担して復旧工事を進めた。島民たちは自分の仕事を中断して復旧工事に努める。この姿勢は島ならではののではないかと思う。この日は特に島民たちとのコミュニケーションが出来た。田芋を使った焼き餅を食べたり、島民の一人が釣ってきた鰹を捌く現場を見ることが出来たりと、貴重な体験の数々であった。

### 感想

最終日の夜ご飯時は特に印象的に残っている。この日は四人でテレビを見ながらよく笑った。コーディネーターのお母さんの本当に美味しいご飯と、お父さんが話してくれる昔の島のこと、何もないけれども幸せな生活。種子島の火縄銃や昭和初期の新聞紙、島に生息するトカラカラスアゲハなどの標本などいろいろなものも見せてもらって、説明を聞き、このような体験でしか味わえない島の歴史・民族・文化、島独特の温もりを感じることができた。この体験は一生忘れられないものとなった。

今回のプログラムを通じて少し感じたこととしては、行政やNPOと島民の情報共有がより活発になればもっといろいろな課題が解決できるのではということである。また、このような時期（台風の被害がある中で）に体験する機会をいただき、島で支えあって生きる人たちの姿を肌で感じる事ができた。

### 援農体験内容（中之島）

日程	作業内容
1日目	集落散策・工事作業の方への差し入れ、トカラ馬牧場・御池見学
2日目	島ラッキョウの出荷作業 牛小舎見学
3日目	ニンニク植付け作業（畝立て、マルチ張り） バナナ収穫作業 歴史民族博物館・キン岳見学
4日目	台風被害復旧作業補助（炊き出し）
5日目	片付け、報告書まとめ

体験場所: 十島村 口之島

アルバイト (男)



#### 動機・課題

動機としては、農協や自動車整備などの仕事をしていたこともあり、地元の農家の収穫作業なども体験していたので、この経験を活かして農業等で何とか生計を立てられる方法はないかと考えていた。

インターネットで農業体験や農業の仕事を探していたところこの募集を見つけ、島ならではの自然豊かなところや農業従事者への手厚い支援など魅

力的だったので応募した。今回の体験の中で自分としては、農畜産業で生計を立てられるのか、島ならではのコミュニケーションが自分に合うかどうかその2点を考える機会になればと思っていた。体験した結果、自分にあえば今後移住を検討したいと思う。



#### 体験内容

##### ・島らっきょう植付け作業

まず、主な作業は島らっきょうの植付けまでの作業であった。受入れ農家さんは畜産も行っている為、なかなか畑まで手が回らないらしく前回の収穫後のまま放置してあったので、除草・マルチはがし、畑の石集めなど植付け準備を最初に行った。作付面積は1反歩であるが、すべて手作業で行わないといけないためかなりの時間と労力が必要となる。1人で行っているということなので、そのままになっていたことを頷ける。

話を伺うと昔は同時期に入ってきたIターンの方と協働で行っていたとのことだが、離島されて農業をする人がほとんどいないとのことだった。農作業はどうしても人手がいるため、移住者の呼び込みや今回の体験のような労働力の確保が重要であると痛感した。

また、最終的には畝立て・マルチ張り・植付けまで手伝うことができ一通りの作業を体験するこ

とができた。この作業をしながら考えていたことは、労働力が確保できないのであれば機械化をしなければならないが、栽培面積を増やす必要がある。栽培面積を増やすと畜産とのバランスが難しいなど両立する為の適正バランスを考えて経営していかなければならないと思った。

#### ・餌やり、牛舎の清掃

購入飼料を減らすために、牧草の栽培もおこなっていた。その刈り取り作業の手伝いや朝夕の餌やりなど体験させていただいた。放牧やこのような牧草の栽培などでコスト削減でき、牛にとっても生育環境がいいこのような島の管理方法は非常に勉強になった。いろいろな畜産農家さんのお手伝いをし話を伺ったが、人それぞれやり方や考え方も違い、もっと一体となって取り組める組織づくりも必要ではないかと思う。また、共同畜舎を見せていただいたが、牛糞

を大量に置いてあるのを見て、より良質なたい肥化ができるのではないかと思われる。というのも、生に近いものを水分だけ飛ばして乾燥しているように見え、発酵しているようには見えなかったからだ。話を伺うと、牛の数と畑の面積が比例していないのでこのようなことになっているという。農業をする人が増えればこの問題も少しは解決していくのだろう。

#### ・感想

援農体験をさせていただいて感じたことは、この島では畜産で自立されている方が多いため、農業（野菜づくり）が重要視されていないことだった。自分としては、もし移住することになったら両立して経営していきたいと思う。ただ、それには一緒にそれを行う仲間がいなくて労働力的にも困難である。濃密なコミュニティの中で、仕事に対する協力すること・皆で一緒にやることが少ないことが少し気になった。それでも島の人達は仲が良く、本当に良くしていただいた。

#### 援農体験内容（口之島）

日程	作業内容
1日目	・島らっきょうの植付け準備（マルチはがし）
2日目	・牧草の刈り取り ・島らっきょうの植付け準備（マルチはがし）
3日目	・牧草の刈り取り ・島らっきょうの植付け準備（マルチはがし）
4日目	・牛の糞かき作業 ・島らっきょうの植付け準備（石集め）
5日目	・牛の餌やり ・島らっきょうの植付け準備（石集め） ・畝づくり
6日目	・牛の餌やり ・島らっきょうの植付け準備（石集め） ・畝づくり
7日目	・島らっきょうの植付け作業
8日目	・島らっきょうの植付け作業
9日目	・島らっきょうの植付け作業
10日目	・牛の糞かき作業 ・牛の餌やり
11日目	・島内観光



### 動機・課題

#### 1. 定住人口減少による離島衰退の検証

定住という面においては、行政が村営住宅を予め用意していたり、3年間の補助金を設けていたり移住者支援は行っているものの、実際のところ、やはり皆親戚同士というほどのコミュニティだけあって、ものの考え方や方法、人間関係も特有のものがあり、新規移住者には強烈な印象を与えてしまうように思う。現状としては黒島としても若者に住んでほしいという潜在



意識も手伝って移住支援を行っているわけで、移住を持続可能なものにしていくためには移住を希望する方々のギャップを埋めるようなサポートが移住の前にも後にも必要だと感じた。

活性化とは言わずとも、黒島の将来を考える際には必ず若い力が必要であると思うので、これからは定住支援には尽力していかなければならない。島の人々の意識を変えることよりも、新規移住者とそのパイプ役となる行政のアプローチを考えることがまず重要だと思う。

#### 2. 就業人口減少による農業衰退の検証



黒島の産業は主に畜産ということで、毎日畜産の仕事を経験させていただいた。ここでの問題は、端的に述べて「後継者不足」である。動物を相手に毎日仕事することは予期せぬ事態も多く、計画通りに進めることもなかなか容易ではない上、収入も安定的とは言えないだろう。ましてや小規模離島の小さなコミュニティとなると、働くメリットを感じることは難しく、若者が飛びつく仕事とは言い難い。現状畜産に若者を入れなければ存続させていくことが非

常に困難であることから、積極的に就業体験を島外から受け入れたりして、まずその仕事を知ってもらうことから始めなければならないと思う。畜産という仕事からどういったルートで消費者までつながっているのか、またそのルートの始まりである畜産の仕事とはどんなものか、知っているようで知らない人がほとんどだと思う。そういった意味で今回私が行った体験(牛に対する接し方、人工授精の方法、飼料作り等)は大いに新鮮なものばかりであったし、今後も体験者が増えることを期待している。

## 感想

今回9日間の滞在の中、人生で初めての畜産を体験し、実際の移住者・畜産受入れ農家の方々とたくさんのお話ができ、とても充実した時間であったし、その満足感も大きなものである。しかし一方で、住民の方々にとってそれがどのようなものであったかという点はいささか疑問

ではある。体験者もしくは支援者である人間が外から住民の方々を動かそうとしても、それは住民にとっては受動的なものであり、決して「地域おこし」ということはできない。結局は住民の意識が変わらない以上、活性化も起こりうる話ではないことから、交流人口の増減が地域活性につながるか否かは不明である。しかしまた、交流自体は地域活性につながらなくても住民意識を動かすきっかけになる可能性を持つものであるとも思う。そしてその可能性を高める方法として、体験者の増大に加えて長期滞在することが有効であると考えている。少なくとも1か月以上は滞在しない限り、その土地の感覚、風土、生活、考えなど体験者自らの体に落とし

込むことは容易ではないように思う。滞在期間を長期的に設けることで、住民との交流もより充実させることができ、互いの意識の刺激になると期待できる。また体験者において重要なことは、「学びの姿勢」「楽しむこと」である。おそらく体験者のほとんどが自分の日常とは全く異なる環境に興味を覚えて島を訪れるわけであって、そこに様々な経験を受け入れる姿勢は大変重要である。交流人口を増やすことは効果的であると同時に、体験者（交流者）は楽しむ姿勢を忘れず、真摯に受け止めることが必要だと考える。以上のことから、地域活性において外との交流・関係を持つことは必須条件であると考えている。



援農体験内容（黒島）

日程	作業内容
1日目	・島の案内、コーディネーターとの顔合わせ
2日目	・牛舎の清掃（見学） ・牛を別の牧場へ移動（見学） ・牛舎の清掃（見学）、カラスよけネット修復
3日目	・牛舎の清掃、牛のブラッシング ・敬老会、文化祭鑑賞 ・牛のブラッシング
4日目	・草の運搬 ・牛舎の清掃 ・畑の草刈り
5日目	・畑の草刈り ・牛舎の清掃 ・堆肥の運搬
6日目	<自由日> ・移住者宅訪問 ・港散策
7日目	・草の運搬 ・牛の爪切り（見学） ・トラクターで畑を耕す ・子牛の為の草のカット
8日目	・牛の移動・インターンの総括



体験場所: 三島村 黒島

会社員 (女)

### 動機・課題



私が黒島に来た目的は、島の生活とはどんなものなのか、子牛生産畜産とはどのような仕事なのかを知りたかったからだ。

私は今まで子牛が大きく育って卓にのぼるまで、それぞれの農家の方たちが一貫してやっているとばかり思っていた。実際に生産現場を体験し、離島での畜産業がどのように行われているのか体験したいと思った。

### 体験内容



まず、子牛の生産と肥育は別物でそれぞれ専門の農家がいると知って驚いた。他にも牛の値段は血統によって決まること、飼料が昔の値段に比べて2倍以上の値段になっていること、子牛は一头約60万円で売れることなど、知らないことばかりで驚きの連続だった。

また、牛はとてかわいだけれどもあの大きさと体重なので接するときには十分に気を付けて行った。腕が柵と牛の頭の間挟まれ、アザができるなど牛のかわいだけれども臆病でパワフルな部分を肌で感じる事ができた。

## 感想

島の人達は横のつながりがとても強く、深く結び付いていることを体験中に実感することができた。特に、島民全員で子供達の運動会を盛り上げたり、食材を届けてくれたり、生まれた子牛が立たないときなどに助けに来てくれたり困った時にはみんなで支えあうそれが当たり前のこととして行われている姿が、私には新鮮だった。このような姿は、自分が住んでいる都会では絶対に見られない姿だった。

ただ、実際に住んでみると、人間関係が濃密であるがゆえにいいことばかりではなく、逆に大変な部分もあるのではないかと感じた。

この体験を通じて感じた、畜産業のこと・島の人たちのつながりなど今後の人生に生かしていきたい。

## 援農体験内容（黒島）

日程	作業内容
1日目	<ul style="list-style-type: none"><li>・コーディネーターよりオリエンテーション</li><li>・島の歴史・文化・産業などについて聞く</li></ul>
2日目	<ul style="list-style-type: none"><li>・牛の餌やり、ブラッシング</li><li>・他の生産者の牛舎見学</li><li>・小学校の運動会に参加</li></ul>
3日目	<ul style="list-style-type: none"><li>・牛の餌やり</li><li>・糞かき作業等牛舎の清掃</li><li>・放牧している牛の牛舎への移動</li><li>・島内観光</li></ul>



体験場所: 十島村 中之島

会社員 (男)

### 動機・課題



前職でフルーツを輸出入する会社に勤めており、そこで農場視察を繰り返していく中で、第一次産業【農業】に興味を持ち今回体験したいと思った。また、脱サラして妻と二人で一から農業に従事し、移住したいという夢があり、何もわからない中で移住することに不安があったので今回の短期間の移住体験という形で参加した。

【援農体験後、十島村の体験入村事業で一ヶ月の体験も行う】

### 体験内容



#### らっきょうの管理作業

マルチというビニールを畑一面に張り、苗用に残した去年のものを一本一本手作業で植付けを行った。また、昨年度も島らっきょうの出荷作業を行った。まず根を切り落とし水洗いしてから球根の土の汚れや傷み、枯葉をチェックし、水洗いは地味に大変だった。島ではらっきょうを栽培されている方が多く、台風や害虫にも強い作物なので移住するなら栽培し、また加工品や販売方法等もいろいろ試してみたいと感じた。

#### ビワ、タンカン、スイートスプリング等果樹の管理作業

びわや柑橘類の剪定や鳥害防止のネットや果実を保護する袋の被せ等を体験した。柑橘類は非常に害虫に影響を受ける作物で蠅、鳥、小動物等からの果実の保護がどの栽培者さん達もとても大変だとおっしゃっていた。実感として柑橘類は見上げることや木に登り作業することが多く、安全面も慎重に行うようにしなければならぬと感じた。

### バナナの植付

バナナの移植をした。手間をかけずに毎年実がなるので栽培されている方は多かったのですが、台風非常に弱く、安定して毎年確実に商品とするには難しいので、栽培するのなら防風林や地形、栽培量、分植等を考慮しリスクを最小限にしなければならぬと感じた。

### 畜産管理

牛飼いは現在、国内の肉牛市場が非常に高値なので魅力的な仕事の一つでした。基本的には朝夕の餌やりが主な作業ですが、牛と触れ合う時間をなるべく持つようにし、ちょっとした変化も見逃さないようにしなければならぬと感じた。

### 援農体験内容（中之島）

日程	作業内容
1日目	・島内案内 ・各生産者農場見学
2日目	・びわ園の防鳥ネット張り、袋掛け作業 ・島らっきょう植付
3日目	・たんかん・スイートスプリングネット張り ・島らっきょう植付け
4日目	・南瓜の受粉作業 ・畜産農家見学、管理作業
5日目	・島らっきょうの除草作業
6日目	・島らっきょう収穫、出荷作業
7日目	・島らっきょう収穫、出荷作業
8日目	・島バナナの移植

### 感想

援農体験及び移住体験で1ヶ月と少しの体験で多くのことを学び吸収させて頂いた。

島では、農業をはじめ食事、食料、移動手段、生活全般に至るまでたくさんの方から支援して頂き不自由することなく仕事に集中して勉強することができた。

島という小さなコミュニティでは地域事業、挨拶等、都会ではあまり味わえないものを体験させて頂き、共存、共助、結の精神を肌で感じその大切さを再認識することができた。

この体験を通じて、笑顔から挨拶、助け合いの心が重要でそれを再認識させて頂き、私達夫婦にとって大きな財産になった。

今回の援農体験は自分達がこの島に移住をし、どのように生計をたてていったら良いか、考える良い機会になり、体験内容を踏まえ、夫婦で今後の人生設計を考えていきたいと思う。

体験場所: 十島村 中之島

主婦 (女)

### 動機・課題



結婚を機に離島や自然の中での暮らし、農業で生計を立てていくことなどについて、主人と検討している時にインターネットの募集記事を見て、是非一度移住体験がしたいと思った。特に島の人たちとのコミュニケーションなどこの体験でしか感じることでできない部分を体験したかった。

【援農体験後、十島村の体験入村事業で一ヶ月の体験も行う】

### 体験内容



#### ・宿泊施設等生活に関して

宿泊場所となる「十島村開発総合センター」は、各部屋には鍵付きの扉、ユニットバス、台所、小さな冷蔵庫が完備されており、移住体験するには十分な施設だった。

日常生活については、洗濯機や車の用意までしていただき、特に不便を感じることはなかった。

#### ・農業体験

果樹園では、ビワの網掛け・剪定、たんかんの袋かけ、スイートスプリングの剪定、バナナの植替えを行った。

牧場では、牛飼いの見学、トカラ馬の牧場清掃を体験した。

畑では、カボチャの受粉・管理作業、島ラッキョウの植付けから出荷準備などを行った。



・農機具等の扱いについて  
農業機具全般について使用方法や注意点を一通り教わりった。  
草刈り機は一番使用頻度が高い機械で、組み立てから分解までを教わり、畑や林道の除草を実施し、耕運機に関しても同内容を教わった。また、農業では機械全般において必ず安全性が問われるものなので、その点を意識して作業をする大切さを学んだ。

・コミュニティ活動  
島のイベントに参加させて頂き、指導者以外の方たちとも触れ合うことができ、作業以外の島の雰囲気を感じることができた。

#### 援農体験内容（中之島）

日程	作業内容
1日目	・島内案内 ・各生産者農場見学
2日目	・びわ園の防鳥ネット張り、袋掛け作業 ・島らっきょう植付け
3日目	・たんかん・スイートスプリングネット張り ・島らっきょう植付け
4日目	・南瓜の受粉作業 ・畜産農家見学、管理作業
5日目	・島らっきょうの除草作業
6日目	・島らっきょう収穫、出荷作業
7日目	・島らっきょう収穫、出荷作業
8日目	・島バナナの移植

#### 感想

全体的に、生活に不便さは感じることなく過ごすことができたと思う。皆さまの優しさ・親切心によって、充実した体験をすることができた。今回の移住体験に協力して下さった皆さまに感謝したい。



動機・課題

私は、将来的に過疎地域に移住し、その土地の課題解決を行える仕事をしたいと考えている。鹿児島からフェリーで12時間もかかり、週2回しか移動手段がない宝島で実際に生活し、このような離島で生活するにはどんな仕事があるのか、また限られた場所や資源を活かし仕事を生み出すことにはどうしたらいいのか

興味があった。これだけアクセスが悪いとなかなか観光客の集客は見込めないし、屋久島のような観光資源がなく、1週間生活していると、いつも利用しているものがないことに気づき、疑問が増えてきた。

体験内容



・農業

主な内容は、島らっきょう畑の除草で、地味でしんどい作業だった。農業体験といえば、収穫をお手伝いして、やりがいや達成感が味わえるイメージがあると思うが、農業のほとんどがこのような地味な作業の繰り返しだということ再認識した。私が活動していた畑は、元々は草や木が生い茂っていたようで、重機を使って開墾するところから始まったと伺った。今まで関わったボランティアの方たちと作り上げてきた畑の一部ではあると思うが、私も関わることが出来て嬉しかった。作業は手を動かすだけでいいので、その代わり頭では自分の学生時代を振

り返ったり、将来の事を考えたりと自分を見つめ直す良い時間になった。

#### ・加工品の生産補助

少しの時間ではあったが、加工品の生産補助もした。まず、お手伝いして驚いたのが、1つ1つが手作業だったことである。商品をグラム単位で入れたり、タグを1つ1つ糊付けしたりと。作業中に感じたことは、「このやり方は効率が悪い」とか「あの時はこの器材は使っていた」などと意見が交わされていて、試行錯誤を繰り返し、ようやく商品化まで来たのだと感じた。手作業で手間がかかっているの、商品に対する思いや苦勞を感じ、食べたいと思った。

#### 援農体験内容（宝島）

#### 感想

宝島の人々（特にIターン者）が、それぞれが強い目標を持ち、協力しながら生活していることに感動した。都会と島の生活を比べてみて感じたことは、誰がどこで何をやっているのかが分かること。それだけ小さなコミュニティで生活するのは楽しい部分もあるが、難しい部分も多いはずだ。コミュニケーションが非常に大切で、すれ違う人には元気よく挨拶するなどが活発に行われていたように感じた。地域に入って何かをするということは、様々な課題があって苦勞することも多いことが

日程	作業内容
1日目	・とびうお加工品のタグ付け作業
2日目	・島バナナ加工品の梱包作業 ・島らっきょうの除草作業
3日目	・島らっきょうの除草作業 ・収穫祭参加 ・島内観光
4日目	・島らっきょうの除草作業
5日目	・島らっきょうの除草作業
6日目	・島内観光 ・島らっきょうの除草作業
7日目	・島らっきょうの除草作業

分かり、地域には何が必要で、自分には何が必要で何がやりたいのか、これからの社会人生活の中でしっかりと考えていき、将来的には地域で働きたいと思った。

また、援農体験を終えて、事前説明時にお聞きした「島の暮らしは、日本のあるべき姿が映し出されている」という言葉を思い出した。人に会ったら元気よく挨拶する。不便・面倒だから諦めるのではなく、その中で考えて工夫して作り出す。分からないことなどがあれば正直に聞く。周りの人と協力する、そして感謝する。など、島では普通のことだが、都会ではなかなかこのような光景を目にすることはないかもしれない。私自身も普段の生活で出来ていない部分もあり、生活を見直す良い機会になった。必ず何年後かに、成長した姿を見せるためにもう一度宝島を訪れたいと思う。

体験場所: 三島村 竹島

大学4年(男)



#### 動機・課題

知人がSNSで今回の募集を呼びかけていて、興味を持った。援農体験という名目だったが、それだけにとどまらず、離島という地理的条件において、どのように「暮らし」を成り立たせているのか、という疑問も同時に知るために今回の援農援農体験に参加した。

#### 体験内容

全3日間の行程で下記のような体験をした。

1日目は、島の小学校に挨拶に行き、児童数や校舎の紹介などを行って頂き、その後島の観光案内をしていただく。

2日目は、午前中に島の名産品である「大名筍」を収穫するための伐採作業を住民と一体となって行った。道路から竹藪の中に入って竹を鉋で刈っていくという作業で、体力を使う体験内容だった。

午後からは、畜産の管理作業を体験した。決められた餌の量をそれぞれの牛に与えたり、子牛にミルクを飲ませるといった内容であった。

夜は、特別に任期付き教員を島民総出で送る会に参加させていただき、島のコミュニティについていろいろと話をしたり、勉強になることが多かった。



3日目は、鹿児島大学等の大学生も合流し、午前は大名筍狩りの道づくりのための伐採作業を引き続き行い、午後からは、島の食材を自分達で調達し、料理を作るなどの体験をした。



## 感想

今回の交流体験を通して感じた事は大きく分けて2つである。

1つ目は「食に対する感謝の気持ち」。

普段の生活でも何気なく、食事の時に「頂きます」、食べた後は「ごちそう様でした」と言っていた。勿論、他の命を頂いて自分の命が生き長らえている訳なので、昔から食事の時は、言っていた言葉だったが、今回の援農体験を通して、生きている

牛、それも飼育者の愛を感じているからか、初対面の私にも甘えてくる牛を愛おしく感じつつも、いつかは、私たち人間が食べる事になるという現実をしっかりと私たちが受け止めて、『感謝の気持ちをもって頂かないといけない』と強く実感した。これが今回の援農体験における私自身の大きな収穫であり、実感を持った学びであったと思われる。

2つめは「思いやりの心の大切さ」である。

島暮らしは、都会と比べて交通のアクセスも不便であったり、コンビニ等も無かったりと、不便な点も存在するが、人口が少ない分、お互いの顔が見える関係があり、「シャンプーが無いなら、うちのがまだ備蓄あるし分けるよ」といったようなやり取りがあった。隣に住んでいる人がわからない、いざという時に支えあえる人が居ないといった、都会ならではの問題も、竹島にはないと感じた。

そういった意味で、お互いを思いやる気持ちを持つ大切さは、大切だと改めて学び直した。総じて、楽しくも学びの多い援農体験になり、関係者の方に感謝したいと思う。

## 援農体験内容（竹島）

日程	作業内容
1日目	・島の案内、コーディネーターとの顔合わせ ・あいさつ回り、小学校見学
2日目	・竹林の伐採、管理作業 ・牛の餌やり、糞かき作業 ・島の送別会参加
3日目	・竹林の伐採、管理作業 ・大名筍の収穫、食材探し ・大名筍ブランディング会議等参加
4日目	・島内観光 ・出島式参加



体験場所: 三島村 竹島

大学3年(男)



#### 動機・課題

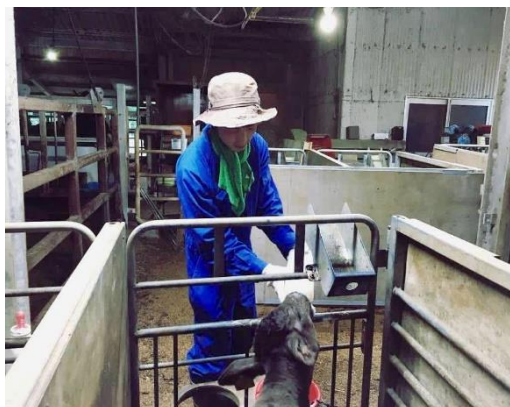
今回体験に参加した動機は2つある。

1つ目は、一次産業を就職の選択肢の1つにしており、体験を通して想いを確かめられると思ったからである。2つ目は、「離島」でのコミュニティや防災はどうなっているのかが気になり、実際に島民の方にお話を聞きたいと考えたからである。

島の一番の課題は人手不足である。あ島では畜産が主で、それに加えて筍がある。竹島の8割が竹林で、その竹林の中に島特産の大名筍が生えている。資源はあるものの、人が十分におらず筍が生えるために必要な竹の伐採が十分にできていない。それにより筍の収穫量が減少するといった悪循環が発生しているのが課題である。また、十島村に比べて大名筍の価格が10分の1となっており、それにより収穫者の報酬も少なくなっているのが課題である。営業努力の差が価格の差に繋がっているが、その営業をするにも人手は十分ではない。

人がSNSで今回の募集を呼びかけていて、興味を持った。援農体験という名目でしたが、それだけにとどまらず、離島という地理的条件において、どのように「暮らし」を成り立たせているのか、という疑問も同時に知るために今回の援農体験に参加した。

#### 体験内容



・竹林伐採

筍のシーズン以外は竹林整備を行う。筍の収穫時スムーズに竹林を歩くことができるように竹を切って道を作る。教えていただきながら道なき道を道にしていった。

・牛舎の清掃、給餌

生まれて間もない子牛にミルクを、母牛に牧草をあげた。

感想

島民の方と触れ合う機会があり、何か不自由なことはあるかと聞いてみた。すると、確かに離島ではあるが不便だと思わないとおっしゃっていた。商業施設やコンビニエンスストアはない。しかし、島民の方はそれが当たり前で、そのなかで楽しむことを考えている。島での暮らしに魅力を感じる若者が増え、実際に定住するようになっていけば、筍の出荷はもっと勢いがつくと思う。定住とは行かな

くても、竹島のことが好きで竹島に年に数回来るファンができるだけでも全然違うと思う。そのための制度はある。しかし、穴がある。島でずっと暮らしていくために雇用を作っていくことが重要であると感じた。

援農体験内容（竹島）

日程	作業内容
1日目	・島の案内、コーディネーターとの顔合わせ ・あいさつ回り、小学校見学
2日目	・竹林の伐採、管理作業 ・牛の餌やり、糞かき作業 ・島の送別会参加
3日目	・竹林の伐採、管理作業 ・大名筍の収穫、食材探し ・大名筍ブランディング会議等参加
4日目	・島内観光 ・出島式参加



体験場所: 三島村 竹島

大学3年 (男)



#### 動機・課題

私は、特に農業関係の仕事に就くわけでもない。だが、どうしても農業のことを知りたく、応募した。

竹島は、リュウキュウチクという竹が島の8割を占めている。私は沖縄出身なので、竹島と沖縄は何か関係があるのではないかと、純粹に興味を持った。また、ただの観光だけでなく、農業体験や島民との交流を

通して、観光では味わえない深い部分も知りたいと思ったこと、沖縄の離島との比較をしてみたいと思ったのが動機である。



初日は、コーディネーターさんに、島の観光案内をしていただいた。一番の有名スポットである、コバルトブルーの海を取り囲むがけで囲まれた籠港。珍しい下り宮が存在する聖大名神社。島の人口とほぼ同数の牛が放し飼いにされている佐多浦放牧場。そして、沖縄にも存在するガジュマルでできた門。小さい島にもたくさんのスポットが詰まっていることが分かった。

二日目は、いよいよ農業体験を行った。午前中は、竹林伐採を行った。5月のたけのこ収穫のシーズンのために、竹林を切り拓いて道を作ることで、収穫をしやすくする。竹を切り取るのはコツがいり、中々一発で切り取るのは難しいが、慣れるととても楽しさを覚えた。島のおじいちゃんおばあちゃんが、慣れた手つきで軽々と竹を刈り取っていったのが印象的だった。

午後は、牛の世話を行った。ミルクをあげたり、えさやり、ブラッシングなどを行った。特にブラッシングが楽しく、牛が気持ちよさそうにしてくれるのでとてもやりがいがあった。

三日目は、新しく来た学生リーダーを交え、自分たちで食料を調達し、調理を行った。シーズンではないので、とれたタケノコの数はいらなかったが、それでもとても美味しかった。夜は、島の人たちとともに、どうやって島の名産である大名茸をブランディングしていくかの会議を行った。島の人だけではなく、外部の学生である私たちが意見を出させていただくのはありがたいことであり、そういった機会も貴重だと感じた。

#### 援農体験内容（竹島）

日程	作業内容
1日目	・島の案内、コーディネーターとの顔合わせ ・あいさつ回り、小学校見学
2日目	・竹林の伐採、管理作業 ・牛の餌やり、糞かき作業 ・島の送別会参加
3日目	・竹林の伐採、管理作業 ・大名筍の収穫、食材探し ・大名筍ブランディング会議等参加
4日目	・島内観光 ・出島式参加

#### ・感想

月並みな表現になってしまうが、まず一番感じたのが、島の人たちの暖かさである。この島の人たちには、他人という関係がほとんどない。みんなそれぞれの名前を知っていて、島民80人が家族のような存在。誰かが島を出るときには、必ず送り届ける。今回、実際に島を出る先生方の送別会に参加させてもらい、とても感動的な会になり、その暖かさをリアルに感じる事ができた。アパートの隣の人も分からないような現代で、こういった島の暖かさが、とても貴重であるように思われた。

次に、お年寄りの方のパワフルさである。竹を刈り取る作業は、思った以上に力が必要だ。くたくたになってしまうほどの作業でも、島のおじいちゃんおばあちゃんはおろともしない。島の高齢者はみんなパワフルで、すごく若さを感じられる。これも離島の力なのかと感じた。

そして、島の資源である大名茸をどうブランディングしていくかも考えさせられた。やはり資源が少ない状況で、島の生活を存続させていくには、島の人はもちろん、外部の人間も呼び寄せて一緒に考えていかなければならない。今回は、リーダー会議でそれを行うことができよかった。

今回は4日間の滞在であったが、島の皆さんに助けられ、とてもいい農業体験になった。農業以外でも、島の人たちとしっかり繋がりを作ることができたと思う。またいつか、竹島を訪れて、農業体験を行い、島の人とふれあいたい。



#### 動機・課題

応募した動機は現在、家族（妻、子供1名）での移住を検討するうえで生活基盤となる農業をするために、どれくらいの圃場面積が確保できるか、また土壌の状態がどうであるか、どのような品目が栽培されているか等の一次産業の状況と住宅環境や島の自然環境などを実際に体験し、確認をしたかったためである。

そして、できる限り自給自足できるような生産技術の確立をしたいと考えている。

#### 体験内容

##### ・農業

##### 島らっきょう畑の除草

砂地の草抜きは驚くほど抜きやすかったが、なれない姿勢で腰が痛くなったりもした。また、畑のよく肥えたエリアになると草の根がよく張っていてらっきょうを傷めずに草を抜くのが難しくなってきた。受入れ農家さんのは、今後この作業を軽減するために4条植えの隙間の草刈り機の導入を検討しているとの事であった。たしかに機械化したい作業である。

また、除草している中で感じたことは、通常に比べて砂地では生き物の数が少ないということである。受入れ農家さんに確認したところ。「有機物の分解は遅い」とのこと。



##### 熱帯果樹等その他

ここでは自分の住む地域では見られないものも多く栽培されておりドラゴンフルーツやパッションフルーツ、パパイヤなど興味深かった。その中でもパパイヤは高値で販売されているのに、宝島ではほとんど出荷されていないと聞き特産品化できると思われる。また、芭蕉布のプロジェクトの手伝いや畜舎なども見学し、この島での就業についてのいろいろな可能性をみ





ることができた。また、耕作放棄された水田や畑が多く、もったいない。

・コミュニティ・生活環境について

住宅不足と聞いていたが、島の建造物全般の補修さえも満足に出来ていないように見える。村営住宅は小さく、妻帯者の移住の場合家財が入りきらないと感じ、せめて別棟倉庫位ないと引っ越せないと思われた。仮設住宅を持っていこうかと考えているが、島民の住居全体が修繕の行き届いていない状態で、しかも皆さん狭い住宅環境のなかで自分たちだけ住宅整備を進め辛い。ましてや就業者育成奨励金で村に養ってもらっている間はなおさらである。このような住宅環境の整備を切に希望する。

子供を育てる環境としては、最近できた保育園にもかかわらず、よく準備されたプログラムを園児たちの注意を引き付けながらイレギュラーにも連携対応しながら運営されており、先生達のスキルも高かった。

援農体験内容（宝島）

日程	作業内容
1日目	・とびうお加工品のタグ付け作業
2日目	・島バナナ加工品の梱包作業 ・島らっきょうの除草作業
3日目	・島らっきょうの除草作業 ・収穫祭参加 ・島内観光
4日目	・島らっきょうの除草作業
5日目	・島らっきょうの除草作業
6日目	・島内観光 ・島らっきょうの除草作業
7日目	・島らっきょうの除草作業

感想

6日間の体験で感じたことは建造物の補修や廃屋の解体が行き届いておらず、人的資源も足りていない中で、住民の村おこし意識は移住者ほど高くはなく、積極的に活動しているのは移住者が中心のようであった。移住したものの残念ながら離島された方も多くいると聞き、相互理解に至らず貴重な人的資源をみすみす逃すのは残念なことだと感じた。

十島村への移住者は例外なく「自然と共生」を目指しており、《十島村 まち・ひと・仕事創生「人口ビジョン」・「総合戦略」》にも「自然と共生する」「クリーンエネルギー」「十島パーマカルチャーファーム」というキーワードが見られる。

そしてそれを目指す活力ある有志が集まれば、全国的にも十島村にならう社会が実現できるかもしれない。そして、地球問題を解決する発信源になるのではないかという期待を抱かずにはいられない。

それまで、このような事業などを通じての移住者の呼び込みや移住体験できる機会を作るなど新しい移住者が十島村に貢献できるように対話の機会と相互理解が得られますようご支援と適切なお指導をお願いしたいと切に思う。





はじめにコーディネーター宅で昼食をごちそうになりながら島の話进行いろいろと聞き、島が閉鎖的なのはわかっていたが、初体験の夫には衝撃かもしれない。それでも I ターンの人たちはとても意欲的ががんばっているように見えた。

#### バナナの工房の見学

バナナの繊維をとったその残りかすで紙を作っていたバナナのみでまっすぐな厚紙を作るのは難しいらしく試行錯誤しているようであった。繊維を横と縦均等にしないと縮むと思うので、難しいのだろう。繊維をもっと細かくしたらどうだろうか

#### 島の畑について

山間部にはジャングルになった遊休農地がたくさんあったそこを開拓して畑等にするようであるが、そのような土地ですら借りるのも一苦労らしい

#### 果樹園の見学

みかん・ドラゴン・パッションが丈夫な鉄組にネットをはった中に植えられており、台風がきてもこれなら大丈夫そうである。また、びわには大きな袋がかかっていたけど、どんな味がするのかが気になった。

ゲストハウスの向かいにはパイヤの木があったので、持ち主の方に話を伺った。勝手になるらしく邪魔なので切ろうと思っているらしい自分の住む地域では最近、特産品にしようががんばっているのにもったいないと思った。

#### 放牧地、牛舎の見学

牛舎には4ヶ月くらいまでの子牛がいた。ここから産地を買われていき産地の名前の肉になる



牛と国産の違いは知っていたがこれは知らなかったので勉強になった。島の主力産業は牛のようなので、増えるといいと思われる。ただ今後の価格の下落に備えた対策は必要だと思う。

#### らっきょう畑の草取り

ひたすら除草を行った。土質が砂地なのでスルスルと抜けるのだが、海側にいくにつれて草が大きく手強い。山側は削ってつくった畑なので質が違うのだろうか。

風の強さも関係しているのだろうか

受入れ農家の方のらっきょうの機械は一人で使うにはもったいないほどなので、他の生産者と共同利用や共同購入をして設備投資すればもっと生産性も上がってくると思われた。

漁船に関しては、島なのに少なすぎる印象である。漁だけで生計を立てるのは難しいのかもしれないが、海があるのももったいない。

#### 保育園の見学

先生たちは細かくカリキュラムを組み、絵本の読み聞かせ・歌・エプロンシアター等、プログラムが進んでいく。子どもたちは元気でとても楽しそうだった

先生や指導員と名前がつくと、とかく厳しくなりがちで枠にはめたがるが、ここでは通園日も時間も親に合わせて自由になるようで、街の子どもたちでは味わえない自然と身近な人たちの中で、大いに感性をみがいてほしい

#### 感想

宝島に来て2、3日は、島が「何をしにきた」と言わんばかりに、心がもやもやとしていた。

売店の前ではいつも誰かが話をしていてあいさつをして通りすぎる

道であってもあいさつだけだけれど、1週間よりずっと前から住んでいる気分になる。

今回の体験を通じて、自分も今回コーディネートをしてくださった夫妻のように旅をする人、ボランティアさん、留学してくる子どもたち、いろんな人を受け入れたいと思った。

NPO、役場、コーディネーター夫妻、島の人たち、携わってくださったすべての人、であったすべてのひと、すべての物に感謝します

#### 援農体験内容（宝島）

日程	作業内容
1日目	・とびうお加工品のタグ付け作業
2日目	・島バナナ加工品の梱包作業 ・島らっきょうの除草作業
3日目	・島らっきょうの除草作業 ・収穫祭参加 ・島内観光
4日目	・島らっきょうの除草作業
5日目	・島らっきょうの除草作業
6日目	・島内観光 ・島らっきょうの除草作業
7日目	・島らっきょうの除草作業



## 内容

### \*\*人々\*\*

中之島では車がすれ違う時に会釈をする習慣があり、他人への配慮を忘れない良い習慣だと感じた。街と違ってめったに車が通らないから出来るのだろうが、そんな習慣もあってか人の心も素直だと思う。

### \*\*産業\*\*

十島村の主力産業は畜産であるが、中之島では牛よりも果樹の方が盛んな印象であった。しかし、果樹生産者は高齢の方が多く働く姿は痛々しくもあり、労力不足の解消や省力化が絶対的に必要である。

また、若い方は島らっきょう生産を行っており、手作業の為なかなか作業が進まなかった。田芋に関しても体験でき、植付けを行った。

### \*\*地理\*\*

果樹や水田は島の西側斜面にあり、西地区には苔の生えた味わい深い石垣の集落があった。島中央部の高尾地区には馬と牛の牧場とほとんど使われていない農地が広がっている。島の南側ヤルセには日当たりのよい開けた土地が広がっていてバナナ園があり、島の東側はキャンプ場があり、人がほとんど立ち入らないようで野生のヤギばかりが目立った。

### \*\*資源\*\*

きれいな水が豊富で田芋づくりに最適だとのこと。

果樹の早出しが出来る強みがあるが、日照時間が少ないせいか瀬戸内に比べると甘みが少ない

ように感じた。

また、高尾の圃場面積は立派な資源だが、水はけが悪く活用しきれしていないのが残念である。

ヤルセはかつて集落があったほど賑わいだ場所だったらしいが今は一部の方の果樹園があるだけでまだまだ開拓の余地のある地域だと思われる

島の中程に放置された杉の植林があり、計画的な植林と島内製材で有効活用できそうである。また、椎茸が大きく菌類生産に向いているかもしれない。椎茸以外の可能性も探りがいがありそうであった。

温泉は天然の熱源であり、農業ではハウスに使うのがよくある手法である。

中之島の竹を活用した竹チップ堆肥作りをNPOが実証していたが、生の竹チップはマルチに利用する方もいるらしいので魅力的な農業資源になると思われる。

#### 援農体験内容（中之島）

日程	作業内容
1日目	・圃場と農機具の見学 ・らっきょう出荷作業見学 ・田芋の定植作業
2日目	・3地区の区長さんと面談 ・トカラ馬の立ち上げほう助
3日目	・高齢の生産者への聞き取り ・果樹園見学 ・病気のサンセベリア撤去
4日目	・らっきょう畑見学 ・ヤギの餌採集の手伝い
5日目	・キャンプ場見学
6日目	・ぶたやま果樹園見学 ・田芋水田の水位チェック
7日目	・らっきょう出荷作業
8日目	らっきょう出荷作業 ・ヤルセ果樹園見学
9日目	・炭焼き窯作りの手伝い ・田芋水田水位チェック

資源はまだまだ探せば幾らでも出てきそうな島であるが、それを探し出して生かす人的資源がもっと必要とだと強く感じた。

#### 感想

物資の乏しい島ですが意外と資源豊富であった。しかし、現在のように補助金助成金に頼っている限り豊かな島にはなれないと思われた。出来るだけ輸送しない自給自足+地産地消+高付加価値生産物の輸出形のない高付加価値商品が開発できれば理想的であると思う。

今回中之島援農体験により、移住するにあつたての私の“中之島振興大綱”となった。

援農体験の機会を与えて下さった鹿児島県の皆様、NPO トカラ・インターフェイス、そして、受け入れて下さった十島村の皆さまに感謝したい。色々親切に教えて下さった中之島の皆さまありがとうございました。



内容



宝島に続き、中之島でも授農体験に参加させていただいた。

宝島でも小さくは感じなかったが、中之島は何倍も大きく、仕事の合間にはどうてい見て回れる広さではなかった。

初日は足早に田芋を植える田んぼ、バナナやタンカンが植えてある農園、びわ、養蜂などの取組を見て回り、高尾にある広大な土地に関しては、破れたま

まのビニルハウスや何も植えていない畑も多く、あまり活用はされていないようにみえた。島の話では、粘土質で水はけがわるいとのこと。冬の雨量でも瀬戸内とは比べものにならないほどの量でびっくりしたのに、梅雨ともなると驚異的な量で畑がつかってしまうらしい。それを考えると、梅雨時期を外して耕作するらっきょうが最も効率がよいのかも知れない。しかし、宝島の砂丘と違い、収穫するのも大量の粘った土が邪魔をし、出荷作業でも水洗いから始まりきれいにするには相当な時間を費やしていた。

びわ農家の方は高齢の方が多く、畑に行く道は悪く、鳥とヤギの被害も大きいと聞いた。対策費用も労力も大変なように見え、今後高齢者には難しいのではないかと思う。ちょうど私たちが話を伺ったころ、出荷が始まるとのことで、誰か手伝ってほしいとっておられたので、このような事業を今後も継続していく必要があるのではないかと思われる。自分たちが移住をしたらぜひともボランティアの受け入れをしたいと思っている。

島内の観光では、ヤルセや灯台に連れて行ってもらい。ジャングルのような道を走り、やっとたどり着いたところはやっぱりジャングル。しかし、昔の家の跡がいくつもあり昔は人が住んでいたとすることで、南で日当たりもとてもよく、気持ちが良い場所であった。



そこで、スターフルーツをはじめて見た。黄色い星の形をした実、原種なので酸っぱすぎて誰も食べないのでいつも落ちてそのままとか。食べられると聞いたので食べたが、確かに酸っぱく、南国フルーツ特有の臭さと渋みが気になった。このような果実や規格外のビワもドライフルーツの砂糖漬けにするといいと思う。

やはりどこの離島でも加工は強みになると思った。

開発センターの近くにトカラ馬の牧場があり、毎日のように出かけていった。強い馬に蹴られてしまいうらしく、二度ほど馬が倒れているのに遭遇した。馬は倒れたままでは弱って死んでしまうとのことなので、二頭ともどうにか立つことができたのでほっとした。

トカラ馬は増えたのに今年の冬は寒さが厳しく、牧草があまり育ってない聞き、自然のまま飼っているので弱肉強食の世界、しかたがないのかもしれませんがもう少し管理が必要かもしれない。

私が偶然保育士の資格を持っているということで、保育士不足の保育園のお手伝いもさせていただいた。とても人懐っこく元気いっば

いで、島の人たちみんなに愛されて育てているのだろうと思う。たくさんの自然とたくさんの愛情をもらって育てていく子どもたち、そんな子どもたちが帰ってこられるような島に、もっともっと素敵な島になってほしい、そのお手伝いができたらうれしい。

## 感想

体験中、たくさんの方と接することができ、そしてみなさんによくしていただいた。

そのおかげで島の生活にもすぐになれることができ、すっかり馴染んでいるような錯覚に陥ってしまうくらい楽しく過ごすことができた。これまで携わってくださった皆さんに感謝したい。

## 援農体験内容（中之島）

日程	作業内容
1日目	・圃場と農機具の見学 ・らっきょう出荷作業見学 ・田芋の定植作業
2日目	・3地区の区長さんと面談 ・トカラ馬の立ち上げほう助
3日目	・保育園の手伝い
4日目	・保育園の手伝い
5日目	・保育園の手伝い
6日目	・ぶたやま果樹園見学 ・田芋水田の水位チェック
7日目	・らっきょう出荷作業
8日目	らっきょう出荷作業 ・ヤルセ果樹園見学
9日目	・炭焼き窯作りの手伝い ・田芋水田水位チェック

内容

中之島に到着後、車で移動しながら畑等を大まかに見て回った。以前移住していた方が放棄した所や未開拓の所が多々あり、今後どう活用するのか等の話しも聞いた。

枇杷畑で枇杷を貰って食べた。酸味があり、さっぱりとした味だった。

2日目は朝から台風のような天気だったが、いつものことだと聞いて、自分は穏やかな風土で育ったのだと実感した。

民宿へ遊びに行き、でコーヒーをご馳走になりながら、島と雑談をしながらいろいろなことを伺った。午後からは、トカラ馬牧場に行きトカラ馬をみたり、餌を与えたりして過ごした。地面の草は食べ尽くした模様。ひもじいのだろう。地面に口をくっつけて掃除機のように移動をする馬は初めて見た。

保育園の手伝いにも行き、子ども達と何回か遊んだ。元気で何よりだと思う。

高齢化に伴い、農業等の規模縮小や引退は仕方の無いことだと感じた。しかし、どこもそうであると思う。その分、皆が力を合わせている姿を体験している最中、いろいろなところで目にした。

会う人、行く先々で、「暇でしょ」「何も無いけど大丈夫？」と、気を遣っていただいた。島での生活はもっと時間があるのかと思っていたが、意外と暇とは思わなかった。

島らっきょうの出荷作業の体験は非常に勉強になったと思う。生産者のしっかりした信念からうまれる丁寧な作業であった。大量生産には向いていないが、逆に数量限定が付加価値になるのかは自分にはわからない。

保育園の卒園式に使う看板の装飾を作りなどコミュニティ活動の体験もできた。自分の好みで作ってしまったので、卒園する子どもが気に入ってくれるか不安ではあるが喜んでもらえれば幸いである。島で



は何をするにも資材が全体的に少ない。その分アイデアで乗り切っているのだと思う。

島民の方と案内していただき、御岳に車で登った。島を一望して、清々しい気持ちになった。硫黄の煙も見た。このような景色はなかなか味わえるものではないと思う。

### 感想

1週間と少しの滞在だったせいかもしれないが、過ごす感覚が生まれ育った島と大差無く、懐かしささえ感じた。しかし島民の方々には、橋で島続きになっている時点で大差あると言われてしまった。島民が少なくて、付き合いを選べないところに不便を感じるが、都会には都会の、田舎には田舎のわずらわしいところがあるのだから、何処に行っても自分次第であるし、住めば都である。

### 援農体験内容（中之島）

日程	作業内容
1日目	・圃場と農機具の見学 ・らっきょう出荷作業見学 ・田芋の定植作業
2日目	・3地区の区長さんと面談 ・トカラ馬の立ち上げほう助
3日目	・保育園の手伝い
4日目	・保育園の手伝い
5日目	・保育園の手伝い
6日目	・ぶたやま果樹園見学 ・田芋水田の水位チェック
7日目	・らっきょう出荷作業
8日目	らっきょう出荷作業 ・ヤルセ果樹園見学
9日目	・炭焼き窯作りの手伝い ・田芋水田水位チェック





### 動機・課題

今回この農業・畜産体験をさせて頂くきっかけとしては、自分がいつも食べている食物はどんな過程を通じて自分の口に来るのだろうと疑問を持ったためだ。農業や畜産の事を少しでも知りたい、また自分の知らない未知の世界で過ごし何かを感じ取りたいと思いこの島に来るきっかけとなった。自分は4月から看護師となる身としてこの島の医療

について色々考えることができた。この島には医者や看護師など医療従事者がいない状態であると聞き、何か急変がある場合はドクターヘリで応援を呼ぶ事は可能となるが、それでもまず島に看護師やその他の医療従事者が1人いるだけでも怪我に対する応急処置や病気の早期発見に努める事ができるなどして、医療、福祉面が今後高齢者も増えることから重要となってくるのではないかと考えた。

### 体験内容

#### ・島らっきょう収穫

収穫とは言っても重労働であることから高齢者の方々はらっきょう作りを辞めていく方が多い状態であると聞いた。その言葉の通りまだ若い自分でもへトへトになるぐらい重労働であると感じた。

1度スコップでらっきょうの根を切り、そこかららっきょうの葉を引っ張り収穫し、その後根と葉を切り、カゴに入れていく作業を繰り返した。またその後で水洗いをして皮を取り、根を綺麗に整え、出荷した。とても大変だったが島らっきょうは土



の中でもみずみずしく白く綺麗な状態であり、とても美味しかった。

#### ・牧草狩り、牛の糞の清掃

牧草刈りの方は軽トラックの積荷にたくさん載るぐらい牧草を刈った。この牧草も約1週間で牛は食べる事なので1週間に1回はこの作業を行っている事だった。また牛の糞の清掃では170cmのある自分の腰の部分まで積もった糞を別のところまでスコップで移動させる作業だったが、糞は蒸気を出しながら発酵している状態で臭気が強かった。この糞も農業に使えば良質な肥料になると話されていた。

#### ・牛の糞の清掃妊娠検査の見学



この見学の中で獣医さんと話し、牛の受精の難しさや栄養管理の大切さを感じた。それは人間にも通ずる事だと感じ、牛と人間は遠くない生物だと思った。畜産業では牛は子を産んでその子を育て出荷して初めてお金を得るため、子を産む事がどれほど重要である事かを知った。また牛の睾丸を取る場面を見学させて頂いたが自分が牛肉を口にするまでに牛は様々な痛みを乗り越えているのだらうと初めて知った

### ・感想

この島に来て農業や牛に餌をやったりするなど、今までした事のない体験をさせていただいた。そこで感じたのは想像をはるかに超えた農業や畜産の大変さだった。自分達がいつも食べている食事も、今生きていた生物の命も食べていると感じたし、その過程で生物を大事に育てている人がいて、自分達が食べられている事を実感した。また島の人達の温かさを本当に心で感じた。島の人達は「遠慮することはない」と言う言葉が口癖かのようにみなさん本当によくしてくれ、温かく家族のように受け入れてくれた。この島に来て大自然に心を奪われながら、自分が住ん

でいる地と全く違う事に刺激もあったが、ここで住むということがどれだけ大変であるかも話や実際に住んでみて分かった。医療も届かない島には医療従事者がいない分、健康管理や病気の早期発見出来ることが重要だと感じ、今後このような現場にも看護師などを在住して、少しでも安心して住民の方が過ごせるように医療を届けなければならないと痛感した。

### 援農体験内容（口之島）

日程	作業内容
1日目	・島らっきょうの収穫作業
2日目	・牧草の刈り取り ・牛の管理作業（囲い入れ、乾燥草の配合）
3日目	・牛の妊娠検査の見学 ・ふれあい農園草刈り
4日目	・牛の糞かき作業 ・牛の餌やり
5日目	・島らっきょうの収穫作業 ・島らっきょう出荷作業
6日目	・島内観光